

すなお

令和4年8月号

おやのことば

一時堪えられんという身の障りでも、こうという精神一つの理さえ治まれば、速やか治まる。どうせにやならんとは、言わん言えん。ただ心次第の道という。

明治三十年三月二十九日



会長

日々、厳しい夏の暑さとコロナ感染再拡大という様々なストレスの中、皆さんお変わりないですか。

私は教会生活に戻って一ヶ月を越えて慣れてきたようで、まだ身体の動きに不慣れな部分もあり失敗もしています。先日、診察の際に担当医から「室内にいる時は、コルセットを外して通常通りの生活をして下さい」と言われました。（あー、ありがたいなあ）と喜びその夜は久しぶりにコルセットを外した状態で入浴もさせていただきました。そして、次の日の夕方に事件が起きました。自分の部屋で下に座って用事をしようとは何気なく座ろうとして、もう床に着こうという手前で両膝が急に硬くなり痛みが出て身体を反動で振り返してしまい、その瞬間、背骨に痛みが走りました。もちろん、ケガをした最初のような痛みではないにせよ。（あー、やっちゃった。三ヶ月気をつけて気をつけてやってきていたのに、、、）五分ほど身体を動かさないと足の痺れとかを一応確認して、やむなく再度コルセット生活（次ページへ）

に戻ることになりましたが、何だかがつくりきていました。その時に入院中のある出来事を思い出しました。

転院を間近に控えて、担当医より再度「骨の状態を確認しますのでレントゲンを撮ります」と言われ撮影をしました。夕方に検査結果を説明に来られたら「ちよつと気になる箇所があるので、明日再度CT撮影をします」との話。（えー、気になる所？それってもしかして手術になるかもってこと？）（でも、特に足の痺れも骨に痛みも何もないのに何故？）こうなるともうだめですね。一晩中気になって気になって眠れないのです。

そして、次の日再検査をして結果は、「特に問題なし！」で結果オーライではあったのですが、自分の中ではケガの後、「一週間後の状態で手術をするかしないかの判断をします。」と言われその一週間の無事に乗り越えたので（今後はよっぽどの事がない限り手術になるようなことはない）と勝手に思い込んでいました。もちろんそうなつて欲しいとい

う希望的観測もありました。ですから、もしかしてそうなるかも、。。

と思った途端、手術自体の大変さもさることながら、術後の安静の時間を再度繰り返すのかと考えると本当にしんどくなりました。

人は遠くても近くてもゴールが見えると気持ちこそそこへ向けることが出来ませんが、ゴールが見えないといつまで続けたら良いのかと不安になり、同じことをしていても辛さが全然違うのだと感じました。今の世界や日本の動きを見た時に、本当に混沌としていて先の明るさや喜びを感じにくい状態のように思います。では、振り返ってどの時代が喜び溢れていたのかと考えるとそれもまた難しくよく分かりません。過去には戻れないし、未来を作るのは今の自分です。そうなると今の喜びを見つけないと思えます。今を「ありがたい！」今が「ありがたい！」今も「ありがたい！」で通り抜けたと思います。

とことん、ひのきしん

田中 道則

週に一回海岸にゴミ拾いに行かせてもらい、一年半くらいが経ちました。プラスチックやペットボトル等、のべ数百袋ほど回収できました。かなりキレイになり景色が変わりましたが、まだまだゴミがあります。軽いゴミは自然と上の方にたまってくるのですが、それを回収していくと下の方に大小様々な流木があり、それと混ざっているゴミがあります。それらは木をよけながらなので回収が難しくなります。

しかし、海水の満ち引きの差が大きくなる大潮の時期にかかると一気に潮位が上がリ、満潮の時に対流が起きて、流木とプラスチックの上下が入れ替わるのです。自然の力のすごさを目に見る事ができます。回収できなかつたゴミがまたとれるようになります。

これはとことんキレイになるまでひのきしんさせてもらえと神様から言われているように思います。これから勇んでつとめたいです。



正反対でぴったりの人

椿 信代

入社前から数えて7年一緒の同期がいます。その子とは育ちも性格も全然違い、もし同じ学校にいても多分友達にならないタイプだろうとお互いに思っていました。長女の私と末っ子の彼女、田舎育ちと都会育ち、暑がりと寒がり、大食と少食、地味と派手。真逆の私たちなのに不思議と相性が悪い訳では無いのです。

店員さんと呼ぶのは声が大きい彼女で、彼女の嫌いなものは私が食べ、調べ物ならあちらにやってもらい、難しい計算や漢字はこちらが請け負う。正反対の私たちがお互いの短所を補い合ってなんだかいい感じにここまでやってきました。たまに喧嘩することもあります。振り返ると私にぴったりの人を神様が与えてくださったのだと思います。皆さんにもそういう人がいないのでしょうか？

意見が食い違う人がいるとき、自分と違うところを責め何も分かってくれないと愚痴を言い続ける方が楽です。でも、そんな状態では本人たちはもちろん周りも幸せになりません。どちらかが歩み寄り、広い心で思いやりを持たなければずっと平行線のままです。夫婦や親子のような家族でさえも結局は他人同士なので同じことですよね。これからも補い合い助け合って、互いに陽気になれる関係でいたいと思います。

教会ニュース

今月十四日に田中照子さんの1年祭が自宅にてつとめられました。祭主は会長代理として田中道則さんがつとめて下さり、その後教会の祖霊殿への合祀は会長祭主のもと、コロナ禍の状況を鑑みて最小人数にて合祀祭をつとめさせていただきました。

編集後記

日本ではまだコロナ感染者が減る気配がありません。私が務める会社でも感染者や濃厚接触者が出てきています。行く先々感染対策に気を付けながら過ごしています。最近は暑い日が続いて眠れない時もあります。みなさんも体調には気を付けてこの夏を乗り切りましょう。（編集者K）



すなお

(立教185年8月号)

通 卷
発行所

No.745

天理教瀬戸路分教会

794-0007 今治市近見町4-5-10



0898-23-5004

FAX

0898-23-5123

発行日 2022.8.16

責任者

二宮英治